



(C)Ogino2020

我慢と忍耐の夏休み

園長 小岩井 聡

長く暑い（熱い）夏休みが終わりました。今年は、特に天気が大きく荒れて、自然災害も多発した印象があります。被害に遭われた地域の皆様方にはお見舞いを申し上げます。

ようやくおひさまルーム以外は閑散としていた園内に、子どもたちの笑顔と歓声が戻ってきました。

本来ですと、今年度の夏休みはオリンピック・パラリンピックが自国開催され、大盛り上がりでスポーツに親しんだ夏になるはずですが、昨年度から続くコロナ禍では、そう楽しんではばかりもいられないというのが正直な感想ではないでしょうか。でもそれ以上に、スポーツからもらう感動や喜びは、素晴らしい！と感じずにはいられない夏だったことも確かです。逆に言えば、コロナ禍で延期という逆境を跳ね返して、今年のオリ・パラで見事に力を発揮し、胸にメダルが輝いた選手たちの頑張りは、計り知れないものがあると思います。そんな選手の姿を見て、根津幼稚園の子どもたちは、ここから何を感じてくれているのだろうと、私もテレビで観戦をしていました。

さて、今年の夏休み、予定していた旅行やレジャーを安全のために取り止めたり、我慢したりのご家庭も多いかと思います。リフレッシュしたい長期休みに、日頃できない体験を我が子にさせてあげたいという気持ちも保護者の皆さんには、おありだったかと思います。しかしながら、昨年からのコロナ禍という状況で、無理をすれば命に関わることを理解しつつ「我慢する」「あきらめる」という判断をした事は、幼児期にとっては貴重な忍耐力を育てる機会にもなったのではないのでしょうか。もちろん大人でもこの状況にストレスを感じて、ニュースなどでは羽目を外してしまった人達のことまで報道されていました。頑張っている子どもたちに対して、恥ずかしい振舞いは控えたいものと、自身の行動を顧みる日々です。コロナ禍と言う特殊な状況下で子どもたちは日頃には感じないような「我慢」「忍耐」を知る機会になったでしょうし、大人もそうだったと思います。昨年以上にコロナの怖さが明らかになり、我慢を強いられた夏でしたが、その中での学びはあったと考えるほうが前向きですね。

2学期以降も、コロナ対策にさらに取り組みながら、運動会や遠足などの行事についての対応を考えていきます。今年度も例年通りの取り組みは難しいでしょう。でも、オリンピックの胸に輝くメダルのように、子どもたちにはどんな状況下でも経験を通じて、胸に刻んで、成長の糧にしてもらいたいと思います。保護者の皆様方、地域の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、根津幼稚園として子どもたちにとっての最善の取り組みを進めていきたいと考えております。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。